

# 神戸市樹林葬墓地整備基本方針

## 1. 「樹林葬墓地」のコンセプト

少子・超高齢化や家族形態の変化などに伴い、子や孫への墓地の承継や管理に不安を持つ方が増加しています。神戸市では、2022年度（令和4年度）から2023年度（令和5年度）に開催した「神戸市立墓園のあり方を検討する有識者会議」でのご意見やインターネットアンケートの結果を踏まえ、自然回帰志向に応える形態の墓地を整備することとしました。

個々の木々を墓標とするのではなく、山中の樹林全体を墓標とし、自然山林そのものの土に還ることをコンセプトとした「樹林葬墓地」を整備します。

## 2. 整備予定地

### (1) 場所の選定

整備場所の選定にあたっては、緑豊かな市有地であること、公共交通機関や車でのアクセスが一定確保されていることを考慮し、ひよどりごえ森林公園内に整備することとしました。

### (2) 予定地の概要

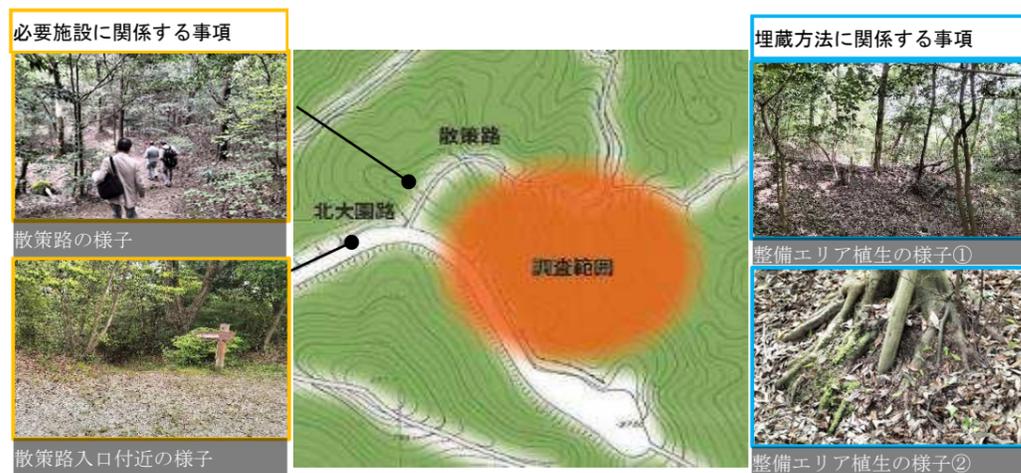
整備予定地は、駐車場のある「ひよどり台メイン出入口」から園路を通じてアクセスでき、住宅地にも近接しない中央部付近に設定しました。

公園内には、アカマツ、コナラ、ヤマモモなどの自然林のほか、シラカシ、ヤマザクラ、ツツジなどが植栽されています。



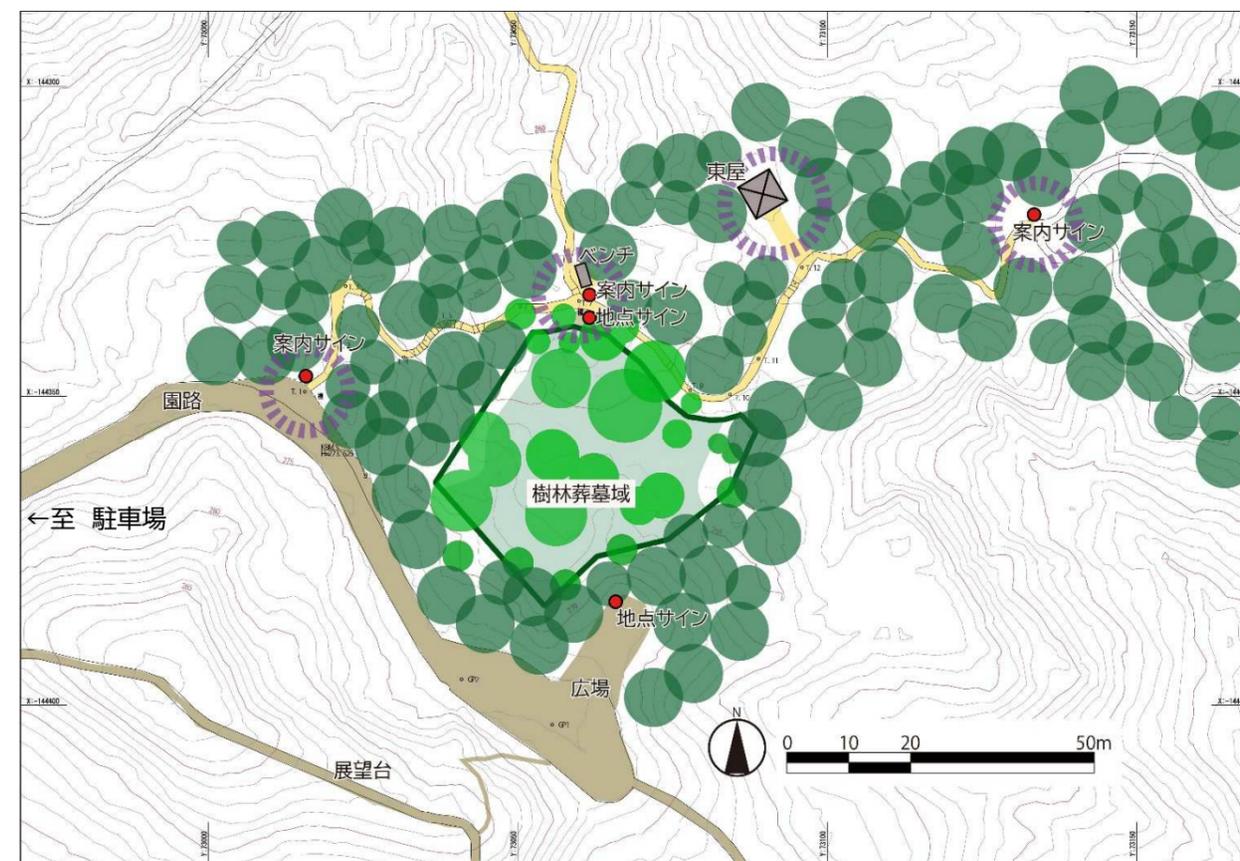
## 3. 整備にあたっての調査・検討

地層や植生等の現地調査の結果、および学識経験者へのヒアリング等をふまえ、整備範囲や埋蔵方法、埋蔵可能数などについて検討を行いました。



## 4. 整備計画

調査結果を踏まえ、次のとおり整備計画を設定します。

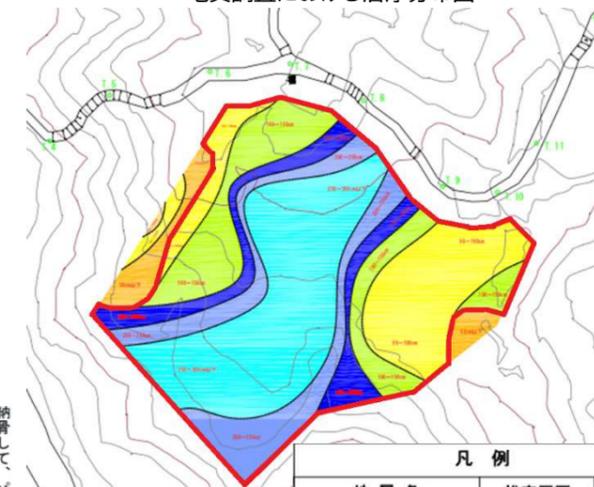


### (1) 埋蔵に関する整備

#### ① 墓所区域

- 調査結果をふまえ、エリア内で比較的平坦かつ埋蔵深さを50 cm以上確保できる範囲（約1,200㎡）を墓所区域として設定します。
- 後述する埋蔵方法を踏まえて、約1,600体の埋蔵量を見込みます。
- また、墓所区域内の樹木の健全な生育に必要な間伐を行います。

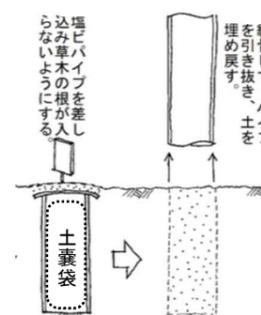
地質調査における層厚分布図



凡例		
地層名	推定層厚	着色
被覆層 粘性土 Cs	0.5m以下	黄色
	0.5~1.0m	黄緑色
	1.0~1.5m	緑色
	1.5~2.0m	青色
砂質土 S	2.0~2.5m	水色
	2.5~3.0m以下	青色
風化土 泥質岩 NKs	---	---

#### ② 埋蔵方法

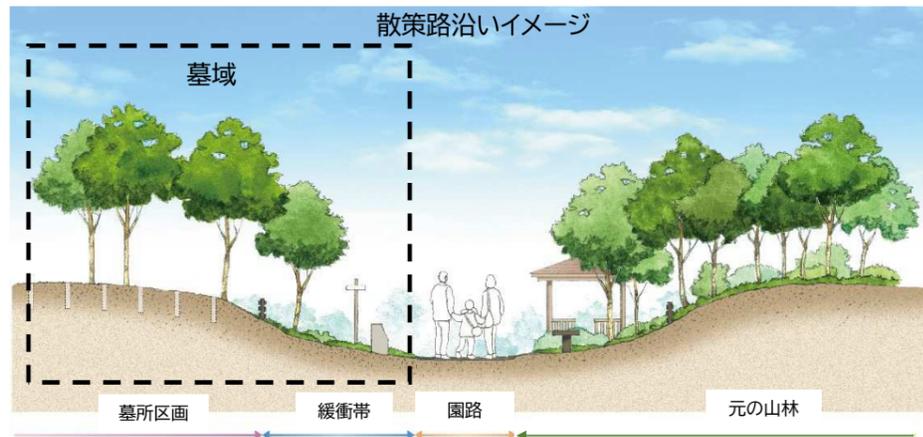
- 整備時に埋蔵箇所を掘削し、草木の根が入らないよう処置を行ったうえで、納骨時に埋め戻します。



## (2) 必要施設・空間の整備

### ① 散策路沿いの整備

- ・ 広々して明るく感じる空間となるよう、墓所区域との間に前庭緩衝帯として3mの離隔を設けるとともに、樹木の健全な生育に必要な間伐を行います。
- ・ 区域界を明示する柵類を設置するものとし、園路側は自然景観に馴染みやすい0.5m程度の粗朶柵を、その他の区域界には猪避けとする害獣防止柵を計画します。
- ・ 利用者がたたずむことのできる、東屋やベンチを散策路沿いに整備します。



東屋・ベンチの整備イメージ



案内サインの整備イメージ



### ② サイン計画

- ・ 墓地利用者だけでなく、公園利用者も認識できる、墓所の入口を明示する案内サインと墓所を示す地点サインを整備します。

## 5. 自然回帰にむけた埋蔵方法の検討

### (1) 遺骨形態の比較

従来の墓地のように、カロート（納骨室）や骨壺を設けると焼骨の自然分解は進まず、また焼骨そのままの状態では、土壌等の状況によっては分解に100年以上の長期間を要することもあります。

このため、樹林葬墓地では粉骨（焼骨を砕いてパウダー状にしたもの）を直接土に埋蔵し、自然分解を促進させる方法とします。

#### 【遺骨形態の比較】

	特徴
ア 焼骨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土に還るまでに粉骨よりも時間がかかる</li> <li>・ 土砂流出等で人骨が表面化する可能性がある。</li> </ul>
イ 粉骨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土に還るまでが焼骨よりも時間がかからない。（20～30年程度と予想される）</li> <li>・ 土砂流出等で人骨が表面化するリスクが無い。</li> <li>・ 粉骨にする費用が別途必要。</li> </ul>

## (2) 埋蔵方法の比較

個々の樹木を墓標とする場合には、埋蔵期間中に墓標となる樹木が枯れたり損傷する可能性があるため、山中の樹林全体を墓標として「自然に還る」形態とします。

	特徴
ア 樹木を墓標とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 樹木のたもとに埋蔵する形式。</li> <li>・ 墓標となる樹木が、植生の遷移の影響や樹病等により枯死・損傷する可能性がある。</li> </ul>
イ 山中の樹林全体を墓標とする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の樹木を墓標とせず、エリアとなる樹林内に一定の間隔を設けて順番に埋蔵する形式。</li> <li>・ 植生の遷移により区域の樹種や個体数等は変化するものであり、そのような変化をも含めて樹林全体を墓標とする。</li> </ul>

## 6. 今後の予定

### ① スケジュール

- 令和6年度 : 詳細設計
- 令和7年度夏頃～ : 整備工事
- 令和7年度末 : 募集開始  
(令和8年度供用開始)



### ② 管理期間（50年間）

- 募集期間は20年を予定しており、その後30年は墓地としての管理を継続します。  
(全体埋蔵数を1,600体と想定しており、1年あたりの埋蔵予定数は80体です)
- 50年経過後は、公園内の自然山林となります。

### ③ 概算整備費

- 約7,000万円

※使用料については今後検討